

みみタロウ

日本語版 70号 2008年6月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
大津市におの浜 1-1-20 ビアザ淡海 2F
Tel: 077-523-5646 Fax: 077-510-0601
E-mail: mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp

でかせ ねん しゅうしげっさん 出稼ぎ20年の収支決算

経済学者 ルイス・ウシバ・ロントップ



ラテンアメリカから日本への出稼ぎが始まって20年経ち、私たちの経済的状況は当初より大幅に改善されたと言える。家庭の購買力は非常に良くなり、食料、衣服、住居、健康、レジャーなどの消費力に現れている。

私たちが獲得したものをこれら全てのものは、これまでの個人と家族の努力の賜である。

移民20年を迎えるにあたってこれまでを振り返り、ここにまとめてみようと思う。第一章は、祖先の国、日本が私たちに与えてくれた経済的チャンスにより移民してきたことに始まる。1990年、日本の入管法が改正され、日系人の二世、三世の就労が認められるようになったことで、連続して長期間滞在できるようになった。その結果、正規に経済的に良いチャンスが出現することになり、多くの出稼ぎ者はこれを活かして来日し、その後経済的安定も実現させた。

その過程の中で次のような問題も出てきた。法的な問題（日系の免許のない人々）、教育問題（不登校の子ども達）、非行（日本になじめず精神的に不安定な若者による窃盗）、労働問題（突然解雇）等。

これらの問題は様々な要因から生じているが、中でも主に次の要因を挙げることができる。

1. 文化交流（新しい文化への統合）が少ないこと。
2. コミュニケーション不足。深く理解するための言語ツールとしての日本語を知らないこと。

第二章では、これらの問題は小さくなってきているが、その根絶までにはなお大きな気がかりがある。

現時点からさらなる多文化共生社会へと進むためには、私たち出稼ぎ者が友好イベントなどを通して日本人とさらに頻りに交流することが大切だ。最初は身近な地域で始まったとしても、直に国中に広まるだろう。私たちが日本語を学ぶ努力をすれば、コミュニケーションはもっとスムーズになるはずだ。言葉の壁を乗り越えた者は祝福に備える。

スペイン語やポルトガル語の新聞や雑誌に発表された調査に基づく次の事柄は、私たちの現実の一片を示すものだと言えよう。

- 1) 出稼ぎの女性達は家庭の収入に大きな貢献をしており、安全で平穏な生活のため、日本での永住を選ぶ傾向がある。
- 2) 子ども達については、2つの局面を区別して扱わなければならない。一つは日本で出生した子ども達。彼らの学校への適応は、日本語については問題がないものの、感情や共同生活など他の面については個々に応じた一連のテストや評価を行わなければならない。他方、祖国から到着して間もない子ども達は、学習、生活、感情面で学校への適応能力を減退させる問題を抱えており、それは将来においてさらに深刻な結果を招くこともある。
- 3) 専門学校や大学で学ぶ若者には祝福の言葉を送りたい。このことは、将来の生活にとって非常に大切だ。既に卒業し、企業や貿易会社、観光やホテル産業、病院などで働いている若者も同様である。
- 4) 大人は仕事を通して自分と家族、そして祖国と日本に貢献している。送金をして祖国の貧困の緩和に寄与する者がいる一方、日本で家を購入し、日本の年金加入を希望する者もいる。彼らの多くが考える最も良い投資は、子どもに教育を受けさせ専門職を身につけさせることである。

上記の事実を明示した上で、我々自身に次のような問いかけをしたい。学校や職場など人間関係の存在するあらゆる所にあるいじめだが、それが克服されていると知るにはどうしたらいいのだろうか。小さな子ども達は勉強内容を理解しているのだろうか。親の目があまり行き届かなかった過去を乗り越えたのだろうか。私たちは子どもが高等学校に進学するための道を準備しているのだろうか。どちらが良い投資だろう。債権の購入か、子どもの教育に投資することか。子ども達が勉強している学校を訪れたことがあるだろうか。どのくらいの頻度で？

最後に、ある日私がみた夢の話をつ。

- 1) 月曜から金曜の夜間、大人の移民のために学校が開校されていた。
- 2) 「大人の四世にも在留資格が与えられる」という新聞記事を読んでいた。